

■本資料のご利用にあたって(詳細は「利用条件」をご覧ください)

本資料には、著作権の制限に応じて次のようなマークを付しています。
本資料をご利用する際には、その定めるところに従ってください。

***** : 著作権が第三者に帰属する著作物であり、利用にあたっては、この第三者より直接承諾を得る必要があります。

CC : 著作権が第三者に帰属する第三者の著作物であるが、クリエイティブ・コモンズのライセンスのもとで利用できます。

 : パブリックドメインであり、著作権の制限なく利用できます。

なし : 上記のマークが付されていない場合は、著作権が東京大学及び東京大学の教員等に帰属します。
無償で、非営利的かつ教育的な目的に限って、次の形で利用することを許諾します。

- I 複製及び複製物の頒布、譲渡、貸与
- II 上映
- III インターネット配信等の公衆送信
- IV 翻訳、編集、その他の変更
- V 本資料をもとに作成された二次的著作物についての I からIV

ご利用にあたっては、次のどちらかのクレジットを明記してください。

東京大学 Todai OCW 朝日講座「知の冒険」
Copyright 2012, 佐伯一麦

The University of Tokyo / Todai OCW The Asahi Lectures "Adventures of the Mind"
Copyright 2012, Kazumi Saeki

朝日講座 知の冒険

～もっともっと考えたい、世界は謎に満ちている～

2011年度 震災後、魂と風景の再生へ

第15回 震災と言葉

佐伯一麦



*







歴史の
生き証人

「貞山堀」と その界隈

03 仙台NEWS No.10

貞山堀に託した伊達政宗の夢

莫大な利益をもたらした新田開発と物流交通の整備

江戸時代、仙台藩は62万石であったが、藩祖伊達政宗以来、肥沃な仙台平野を生かして積極的に新田開発を進めたことにより、実際の石高は100万石をゆうに超えていた。藩内各地から集荷された大量の米は、藩内を流れる北上川、鳴瀬川、七北田川、名取川、阿武隈川などの大河川と、それらを結ぶ運河が形成する舟運のネットワークによって輸送された。

そして、17世紀後半から、藩内で消費しない余剰米は、江戸廻米として、主に北上川河口の石巻港から海運で江戸へ送られるようになり、仙台藩に莫大な利益をもたらした。最盛

期には、30万石前後も江戸へ送り、江戸で消費される米の2〜3割を仙台米が占めたという。

時代を超えた大プロジェクト

貞山堀（木曳堀・舟入堀・新堀）の開削

この仙台藩の財政を支えた舟運ネットワークの一つである貞山堀は、阿武隈川河口から塩釜港にかけて、仙台湾の海岸線に沿った形で開削されたものであるが、その工事は大きく3つの時期に分けて行われた。

最も古い時期に掘られたのが、阿武隈川河口の蒲崎から名取川河口の関上に至る区間で、「木曳堀」と呼ばれ、政宗の晩年から二代忠宗の時代の1597〜1601年に、川村孫兵衛重吉が手がけたと言われている。

太平洋に注ぐ名取川と交差して南北に伸びる貞山堀。砂浜の海岸線の先には、塩釜港と小さな島々の集まりが印象的な松島湾が見える。手前右は沿岸漁業基地・関上（ゆりあげ）漁港と名取市関上地区の住宅街

04





















































仁孝義勇協同組合史

日平共産党
市民に身近で、役立つ県政を！
福島かずえ
連絡所















観音妙智力能救世間苦 為東日本大震災物故者冥福供

明石市立中央図書館蔵
大正十三年四月一日
大正十三年四月一日









新
栄
小
学
校
の
桜
を
植
え
ま
し
た

関上桜 平成二十三年四月二日
関上小中学生(いなんじ)が植えた











和暦八月三日

關上町長 渡邊貞郎蒙領
從七位 熟八等 加藤忠藏撰文
熟八等 赤松傳一即言

宮城縣本吉町志津町
阿部清藏















券販売

お好み焼

あげそば

やきとり

やきそば

花火大会







